

基盤医学特論

Tokuron Special Lecture

パーキンソン病の病理学

Neuropathology of Parkinson's disease

弘前大学大学院医学研究科脳神経病理学講座

Department of Neuropathology,
Hirosaki University Graduate School of Medicine

若林孝一 教授

Professor, Koichi Wakabayashi



今から1世紀以上前の1912年にパーキンソン病の病理所見が初めて記載された。それは黒質の神経細胞脱落でもなく、グリオシスでもなく、神経細胞内の封入体であった。その封入体は今日Lewy小体と呼ばれている。私自身は大学院生の時にパーキンソン病の消化管神経叢にLewy小体を見出し、それ以来パーキンソン病の研究を続けている。1997年にはLewy小体の主要構成成分として α シヌクレインが同定された。 α シヌクレインの同定以降、明らかにされたことは多い。本講演ではパーキンソン病に認められる病理所見のうち重要と思われるものを取り上げ、その意義や解釈を含め述べてみたい。

令和2年 **2** FEBRUARY 2020

日/sun	月/mon	火/tue	水/wed	木/thu	金/fri	土/sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

日時： 2020年2月6日（木）
午後5時から午後6時半

Date: Feb 6, 2020 (Thu), 17:00 – 18:30

場所： 医学部基礎研究棟会議室2（生協隣）

Venue: Meeting Room 2, 1st Floor of the Medical Research Building

言語： 発表：日本語 パワーポイント：英語

Language: Talk: Japanese, PowerPoint: English

連絡先： 神経遺伝情報学 大野欽司 (秘書内線 2447)

Contact: Kinji Ohno, Neurogenetics (ext. 2447 for secretary)

注意： 事前連絡は不要です。

Note: No registration is required.